

地方の元気再生事業

・経緯

内閣府が今年度創設した事業。全国 1186 の提案の中から 120 件（倍率約 10 倍）を内閣府地域活性化統本部会合が選定。

・京都府木津川市のテーマ

「幻の都・恭仁京と名宝・加茂の三塔を活かした民学官による観光まちづくり」

・事業実施主体

内閣府が事業を選定。事業内容に関係する省庁が事業を実施。

木津川市の取組みは、国交省近畿運輸局が所管。京都大学が受託して、木津川市等と協力しながら実施中。

（参考）

恭仁京は、奈良時代に聖武天皇によって造られた都（天平十二年（西暦 740）～天平十六年（西暦 744））。大極殿は、平城京の大極殿をそのまま移設したものと言われ、現在、復元中の平城京の大極殿は、恭仁京大極殿の資料を基に復元されているということでも有名。

その後は、大極殿を金堂とした山城国分寺となった。現在の山城国分寺跡（恭仁宮跡）には、金堂跡（大極殿跡）基壇と塔跡基壇が地表に残されている。塔は基壇跡や礎石跡から考えて七重塔であったと推定されている。

「加茂の三塔」は、加茂地域内の下記の寺院にある三重塔・五重塔（現存）
浄瑠璃寺（国宝）、岩船寺（重要文化財）、海住山寺（国宝）

事業内容

・事業全体の特徴

観光と交通の連携による地域活性化のモデルを目指したもの
地域における観光資源を活かした交通利便性向上と地域活性化

取組①：地域の観光資源を活かしたバスシステムの利便性向上と利用促進戦略の構築

実施主体：木津川市、バス事業者等と共同して実施

実施内容：・観光と連携させたバスシステムの路線設計とスキームの構築

- ・バスの増便運行の社会実験及び利用者動向調査の実施

(バス路線再編と運行) 路線数：4 路線 2008 年 11 月～2009 年 2 月まで実証運行

- ・当尾線 JR 加茂駅～加茂山の家 浄瑠璃寺・岩船寺を經由

運行本数 再編前 1 日 5 往復 → 再編後 1 日 8.5 往復 (1 時間間隔)

(11 月は社会実験として、16.5 往復 (30 分間隔))

- ・加茂西口線(3 路線) 奥畑線、西線、銭司線

運行本数 再編前 1 週間 9 往復 → 再編後 1 週間 20 往復

(11 月は社会実験として、1 週間 28 往復)

特徴：これまで 1 便あたり数名以下の利用者であった山間地域のバスの利便性を大幅に高めることによって、観光利用客も利用しやすくなった。観光利便性の向上と、地域の生活交通確保を同時に実現する方法。京都大学(都市地域計画分野)がこれまで各地のバス路線の設計等で得てきた知見をもとに路線設計。

- ・パターンダイヤ化(毎時同時刻発車のダイヤ)
- ・パルスタイムテーブル化(JR との乗継利便性の向上)
- ・各種広報活動、案内情報提供等の利用促進策

実施結果：利用者数の大幅増加(2008 年 11 月と前年同月の比較)

(参考) 京都大学(都市地域計画分野)が、これまで路線設計を行ってきた主な路線

醍醐コミュニティバス、かわらまち・よるバス、綾部市民バス(あやバス)等

取組②：地域との協働による観光の魅力創出事業

実施主体：木津川市、木津川市立恭仁小学校等と連携して実施

実施内容：・プレゼンテーション戦略ツールの作成

- ・小学生等との連携によるワークショップ開催
- ・観光客及び住民を対象とした観光チラシの作成・配布
- ・回遊用観光マップの配布
- ・デザイン戦略の検討

実施結果：観光客の回遊行動の創出、観光客数の増加